



那覇市立教育研究所

所報第3号

平成22年6月11日

那覇市金城3-5-3

所長 池間生子

先生！見られています

所長 池間生子

子どもは授業開始と同時に様々な反応を示す。授業開始の号令とともに、機敏に起立する子どももいれば、なんとなく気だるそうに立つ子どももいる。しかし、基本的には、そういう中にあつても子どもたちは教師のことをよく見ていると思う。教師が教室に入った瞬間から教師の言動を気にしているといつてもよい。

「今日はどんなことをするんだろう」「今日の授業は楽しいかな」などあれこれとイメージを膨らませる。このスタート時点で、様々な反応を示す子どもたちを教師がどのような働きかけをして興味・関心を喚起し、授業の主体を子どもにしていくかが毎日の授業の一つの鍵となる。

一時間の授業の中で「何が分かればいいのか」「何が出来ればいいのか」「何が書ければいいのか」「明確な目標をもったスタートが出来た時、その時間の終わりに子ども一人一人が自己評価の出来る基準値をもつことができる。

「どのように意欲づけをしようか」「どのように学習の中に引き込んでいこうか」スタート時点は、子どもと先生の大切な出会いの瞬間であり駆け引きをする瞬間でもあると思う。

見られていることを利用して授業に引き込んでいくためにも、固定した型にはまってしまうような努力をしたいものである。

5月14日(金) 研究員講座①・那覇市指導主事研修会

「沖縄での教職経験を踏まえて見た秋田の学校」
～秋田市立桜小学校の実践を通して～

講師 那覇市立松川小学校 上原正人教諭

研究員講座と指導主事研修会を併せて、講座をしていただきました。

沖縄に戻られてから、改めて秋田の教育を振り返り、そこから見えてきた、那覇市の教育の改善点などを話していただきました。



秋田の生活指導は、
「しんこい」です。
小学校の先生も専門教
科を持っていません。



5月27日(木) 研究員講座②

「島唄の心と地域づくり」～心の連携～

講師 那覇市中央公民館長 前原信喜氏

島唄に込められた、歴史を生きてきた先人の思いや願いを唄三線と解説を交えながら分かりやすく教えていただきました。

今の平和な社会を守り、子どもたちの将来のためにできることや責任の重さを改めて考えました。



学校・家庭・地域が
連携を密にしてい
くことが、今、とて
も大切なことです。



ワークショップ型 授業研究会

5月18日(火) 那覇市立真和志小学校 5年3組
「倍数と約数」 指導者 比嘉正人 教諭

今年度も教育研究所では、授業改善を目指して「ワークショップ型」の授業研究会のサポートを進めていきたいと考えております。

① 研究授業



① 研究授業

② 指導主事が進め方の説明を致します。

③ グループでの分析



③ 授業中に記録した一人一人の成果・課題をグループで確認します。同じような内容は、まとめていきます。

④ 分析結果の発表



④ 各グループで話題に挙がった内容や疑問が残る点を発表します。課題を一つに絞り、提示します。

⑤ まとめ



⑤ 各グループから出てきた課題を全体の課題としてまとめていきます。

➡ どの教科でもサポート致します。ワークショップ型研究会の依頼は研究所まで！

5月28日(水) 情報教育担当者会



「情報モラルの現状と指導の必要性について」
講師 福岡県嘉麻市教育研究所 池田 勇氏

情報モラル指導は、学習指導要領でも位置づけられています。

学校HPの更新も宜しくお願い致します。

算数・数学授業改善支援チーム

小学校班

依頼校 5校

学習会 4回

授業研 7回

中学校班

訪問校 7校

(教科会への参加)

派遣依頼の申込みが多くなり、期日の調整が難しくなってきました。早めにFAXの送信をお願い致します。詳しくはWebで!!